

1

彼らは、「フトアゴヒゲトカゲ」 として生まれた

世の中には、様々な生き物が、いろいろな役割をもって生きています。当たり前のことを言うようですが、われわれ人間もその中に含まれています。

それは、あのサイエンスフィクション映画に出てくる、海底から湧きでるようなイメージを持ったアメーバの類の「原生単細胞生物」から、痛い、痒い、暑いとうるさく喜怒哀楽を表す「人間」までをも含んでいます。また、肉食、草食、雑食動物から、偏食傾向にあるラーメンしか食べない人間までも入っています。小動物から大型なものま

で、考えてみてもいろいろなものがあります。

生命をつかさどる細胞の複雑さのレベルが違ったり、生命を維持するための器官や機能の違いはありますが、皆、一つの命を維持するた



口を開けアゴヒゲを広げて威嚇するメスの亜成体

めに、各々一生懸命生きています。ラーメンも座っているだけでは出てきません。

野生動物などのビデオを思い浮かべると、肉食獣のライオンは、草食のシマウマを襲って食べ、その残りにあやかろうとハイエナやハゲワシたちが死骸に群がり、肉を食いつまみます。その残りに、より小さな肉食動物が群がり、そのまた残りに、蠅などの虫たちが卵を産み、幼虫がその肉を食べて育ち、もっと小さな細菌たちが、残った死骸を土に戻していきます。その土の養分を吸収して草木は成長し、その葉っぱを草食動物が食べます。このような自然のサイクルに、私たち「生物」は、何らかの形で、また何らかのレベルで関与しています。

「人間」が触ろうとも思わないもの、汚いと思うものを食べて、自然の中での自分たちの役割を果たすために生まれ、死んでゆく生き物も多いのです。その「レベル」とは、われわれが言う、単に強弱、大小、優劣、金銭的価値の相違ではなく、自然のサークルの中におけるレベルなのです。

残念ながら、この自然のサークルの中で、自分勝手な差別をしたり、自分たちのみのために発明したお金や欲のために自然の秩序を乱しているのは、「人間」だけなんです、なぜなのでしょう。

う。恐らく、それは人間という哺乳動物の脳細胞の発達が他のものより進んでしまっているために、欲という感情が強く起こっているものだからでしょうか。

われら、「生き物(生物)」は、かたちや大きさ、知能、寿命、生活環境、食物、生命器官などの違いはあっても根本的には、皆、同じなんだということをご理解いただければ、これほど幸せなことはないと思います。

そんな中で、彼らは、「アゴヒゲトカゲ」として生まれたのです。



警戒心豊かでない顔つきをしたフトアゴ。顔の鱗の一つ一つの色彩がきれいに浮かび上がっている

1.1 アゴヒゲたちと過ごす時間

爬虫類を飼育する人にまずお願いしたいのですが、彼らを触る前に必ず手を石鹸で洗い、触り終わった後にもう一度手を洗うようにして下さい。彼らの糞には思わぬ細菌が入っていることがあります。気づかないうちに彼らは糞の上も歩いていますから用心が必要です。

最初から脅かしてしまいましたが、フトアゴヒゲトカゲは大変なつっこいトカゲですので、小さい生体から飼育する人は、時間をみてはそっと持ちあげて手の上に乗せて馴らしてゆくのが一つのコツです。皆さんが好奇心と恐れを持って見ているように、彼らも同様に好奇心と警戒心を持っているでしょう。

フトアゴヒゲトカゲとは

オーストラリア、タスマニア地方に生息するもので、その種類は天然もので約25種に分けられるそうです。成体の全長は、20センチから50センチですが、生息環境によってはそれを超える大きさになるものもいます。

彼らの特徴は、何といても名前のゆえんとなっている「アゴヒゲ」と力強く大きな頭にあります。首と体の側面にはスパイク状の肌がありますが、戦いの時などにはそれらも大きく広げ、自分の体を大きく見せながら相手に威嚇を与えたりします。

また、カモフラージュでは、顕著なほどではありませんが、明暗という意味で、体色を変えることがあります。



背中を一杯に広げ、アゴヒゲを開いて威嚇するメスの亜成体